

審議会等議事概要

平成26年度 滝川市保健医療福祉推進市民会議第2回計画策定専門部会 議事概要

日 時	平成26年7月30日（水曜日）午後6時30分～午後8時00分
開催場所	滝川市役所 6階 601会議室
出席者	男澤委員、椿坂委員、奥平委員、宮腰委員、岸部委員、泉田委員、神部委員、須田委員、安居委員 事務局：佐々木保健福祉部長、松澤介護福祉課長、長瀬健康づくり課長、渡辺主幹、柳主幹、谷本課長補佐、菅野係長、鈴木係長、加地係長、須藤主査、伊藤主事
議 事	<p>1 開 会</p> <p>2 部会長挨拶 男澤部会長より開会にあたって挨拶があった。</p> <p>3 議 題（進行：部会長）</p> <p>(1) 第5期滝川市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の実績及び評価について 事務局) 資料に基づき、第5期計画の事業体系、実績と評価について説明 委員) P11に特定健診受診率・特定保健指導実施率の実績が示されていたが、滝川市の数値は低く、中空知市町の中で受診率は9位、また、実施率は6市町が25%を超えている中で滝川市の数値は低い。受診率・実施率の向上に向けて検討すべきである。</p> <p>事務局) 25年度の特定健診受診率・特定保健指導実施率は10月ごろ確定するが、25年度は受診率・実施率の向上のために、健診費用の無料化などに取り組み、かなり改善されている。引き続き、受診率・実施率の向上に向けて努力していく。</p> <p>委員) P13について、認知症サポーターの増員に向けて、一定の人数が集まらなくても、4、5人でも養成講座を開催するなど取り組むべきである。</p> <p>事務局) 北海道の研修を受けたキャラバンメイトが講師となり認知症サポーター養成講座を行っているが、容易に動けるキャラバンメイトが少ないため、介護事業所の職員などに働きかけ、まずキャラバンメイトの増員に取り組み、キャラバンメイトとの連携のもと、サポーター増員を進めていきたい。</p> <p>委員) 認知症サポーターだけではなく、地域体操教室、頭健康教室でもサポーターの養成に取り組んでいるが、各取組みに対し、目標とする養成人数を定めるべきである。</p> <p>委員) 認知症サポーターについて知らなかった。まずPRしていくことが重要。</p> <p>事務局) いただいた意見については、第6期計画に反映できるよう検討していく。</p> <p>委員) P1の二次予防事業対象者の把握について、75歳以上の高齢者全体に対し、実態調査でどの程度把握することができたのか。資料がなければ次回部会</p>

で説明願いたい。

⇒（説明）75歳以上高齢者への実態調査は、市内を3つのエリアに分け、3年間かけて一回りする形で実施している。23・24年度は75歳以上の高齢者世帯を対象に、25年度からは独居同居にかかわらず75歳以上のすべての高齢者を対象に実施。

参考までに23～25年度における把握状況については、

75歳以上高齢者数(H25.9) 6,329人 ①

要介護認定者数(H25.9) 1,839人 ②

実態調査(H23～H25の3年計) 4,320人 ③

24・25年度に75歳に達した方については、75歳人口が1179人であり、3年間かけて一回りする実態調査のため、その3分の2は調査されていないとして、

単純計算で $(②+③-1179 \times 2/3) / ① \approx 85\%$

よって、75歳以上高齢者の85%の状況は把握できていると推計できる。

また、二次予防事業対象者に対する予防対応の状況については、24年度では二次予防事業対象者379人に対し、既にサービス利用している方を除き、温泉教室・体操教室への紹介99人、高齢者サービス利用の紹介14人、介護認定申請8人と対応した。

委員) P5やP8の口腔ケアに関しては、かかりつけ医の往診が増えてきており、口腔ケアの効果は高まっている。したがって、今後、資料にあるような歯科衛生士による訪問調査件数は減少すると考えられる。口腔ケアは、マッサージなどを行うことにより食べ物の飲み込みも良くなり、認知症予防にも役立つ重要な取り組みである。

委員) P26の老人クラブについて、平成21年度の組織率（人口に対する会員数の割合）は20%だったが、25年度は7.3%になっている。組織の在り方について検討が必要である。

委員) 若いメンバーのいる老人クラブは後継者がいるが、新たな入会者のいない老人クラブでは、メンバー全員が80代以上ということもあり、役員の引受手がいなく存続できなくなる。老人クラブの入会は60歳からだが、65歳まで働く時代であり、時代背景も含め考察し検討する必要がある。

委員) 滝川市だけで解決できる問題ではないが、今後計画を作成する上で、介護人材不足の問題がある。制度的な部分が大きいと思われるが、改善に向けて国に対し要請していくことも必要である。

委員) 第3期終了時点で、介護保険の基金が108,500千円だった記憶があるが、第5期で取り崩したのか。資料がなければ次回部会で説明願いたい。

⇒（説明）介護保険に関する基金は、次の2種類。

①介護給付費準備基金：予想を超える急激な介護給付費の増加で予算に不足

が生じたときなど不足額を繰り入れる。市に設置されている。

②財政安定化基金：不足額の繰り入れなどのための基金。市町村に対して、資金交付や資金貸付を行うことを目的に都道府県に設置。

第3期終了時点で約108,800千円の基金残高があったのは、介護給付費準備基金。第4期計画の介護保険料を抑制するために期間中60,000千円の取崩しを計画していたが、23年度末に51,000千円を取崩した。

財政安定化基金は、第3期終了時点で約43,250千円の基金残高。国の方針に基づき、第5期計画の介護保険料を抑制するため、24年度に約28,400千円を取崩し準備基金に繰り入れた。

26年度現在の準備基金残高は約60,000千円、安定化基金残高は約14,870千円。

委員) 介護認定者数の割合は、平成15年度15.8%だったが、平成25年度16.8%になっている。介護認定者数のうち、認知症高齢者の日常生活自立度Ⅱ（誰かが注意すれば自立できるレベル）以上の高齢者の割合は、15年度45%だったが、24年6月には57.7%に増加している。この数値を減らすことが重要になる。この最新のデータを伺いたい。資料がなければ次回部会で説明願いたい。

⇒ (説明) 平成26年3月時点のデータ

日常生活自立度Ⅱ以上の高齢者数 1,385人 ①

介護認定者数 2,177人 ②

①/② = 63.6%

5 その他

第3回策定部会の開催については、介護認定審査会が開催される火曜日以外の日程で、事務局で部会長・副部会長のスケジュールを確認し、後日連絡することにした。9月下旬頃を予定している。

公開する議事録の確認者として、前回に引き続き安居委員を指名した。

6 閉会

会議資料

資料 滝川市保健医療福祉推進市民会議第2回計画策定専門部会議案